

FirstGlobal メッセージ

siesta

2019.6月号 vol.192

発行元：〒540-0012

大阪府中央区谷町1-6-4

天満橋八千代ビル10階

(株)ファーストグローバルコンサルティング

代表取締役

戦略人事コンサルタント 品川典久

TEL 06-6910-3007 FAX 06-6910-3008

Email shinagawa@1gc.jp

URL <http://www.1gc.jp>

今月のトピックス

リカレント教育

「リカレント教育」という言葉をご存じでしょうか？端的には、義務教育や基礎教育を終えて労働に従事するようになってからも、個人が必要とすれば教育機関に戻って学ぶことができる教育システムのことだそうです。生涯にわたって教育と就労を交互に行うことが望ましい、といわれています。1970年代から提唱されていますが、現在、働き方改革や継続雇用年齢引上げ、もっと広げると公的年金制度の見直しなども含めて、政府はこの「リカレント教育」を推進し始めています。今後この言葉はさらに一般化してくると思われます。覚えておいて下さい。ただ、このリカレント教育を広めようとする絶対に必要なものがあります。それはもちろん「教える人」です。「行動科学マネジメント」を展開されている石田淳さんも述べていますが、リカレント教育は社会人が「仕事に活かすために受ける教育」ですから、教育の内容は仕事に関するスキルや知識なので、「教える人」=教員は、いわゆる「その道のプロ」になります。このような教員を「実務家教員」と呼びます。ところが、「実務家教員」たちが、必ずしも「言語化」の能力を持っているわけではない、ということです。いかに「その道のプロ」であっても、彼ら彼女らは「人にモノを教えるプロ」ではありません。話は飛躍しますが、今後、ただでさえ労働人口が少なくなっていく状況の中で「できる人」だけ残す方法は通用しません。できない人も「できる」ようにしていかなければ、企業は存続し得ません。職場の現場でも部下、後輩、新人にモノを教えていく「しくみ」を持たないと、みな辞めていきます。そこに外国人や外国人以上に常識が通じない？人が職場に入ってきます。そこに必要なのは、言語化した「業務マニュアル」「評価制度」です。仕事はできるが言語化ができない、という人でも第三者に伝えられるのが言語化したツールです。製造業で動画を活用している企業もあります。みなさん、手間がかかると敬遠しますが、優先順位は何か？の経営判断だと思います。おすすめ、というよりこれから絶対不可欠です。

< next >

今号は令和へ改元最初のおたよりです（お人によったら平成最後かも）。どんな時代になるのでしょうか？地震含めて、災害の少ない世の中になればいいんですが。今後共よろしく願い申し上げます。